

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念については、スタッフ会議の際に全員で唱和しています。事業所の理念は、引っ越しをしてから掲示していなかった為、掲示したいと思います。	法人基本理念「いつまでもすこやかに生き生きと安心して暮らし続けたい」その願いをかなえる核となるとし、当事業所では「のびやかに、すこやかに」を理念に掲げてリビング内に掲示し、住み慣れた地域で安心して暮らせるような支援に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	移転したばかりで自治会への加入もしていない状態ですが、次年度より加入を検討し、地域の行事に参加したり、施設でも地域の方を呼べる行事などを計画しています。	現在地に移転して1年ほどになりますが、昨年からの交流に努め、地元フェスティバルに出向いたり、ホームから望む田園地帯を散歩して、住民との交流を深めています。	新たな地元交流を図るため、地元自治会に加入し、まずは「ほのぼのホーム」を知ってもらい、地域行事に積極的に参加するなど、身近な存在になるようなアプローチを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人の事業所報告会・SNSでの発信以外はない状態です。今後、自治会などに参加しながら地域の皆様との関係を築いていきたいと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、今年度より対面で2ヶ月に1度開催しており、意見などを頂きながら改善を図っています。	今年度より実際に訪問して頂き、ホーム内で会議を開催し、行事・日常報告(写真提示)や利用者の移動状況、ヒヤリ報告からその後の服薬対応を検討するなど、サービス向上を図る会議内容となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加して頂きながら、事業所の報告を行い、民生委員等の視察も積極的に受け入れています。	運営推進会議に地域包括支援センターの方にも参加して頂き、市の情報を得たり、移動販売を行う大手ドラッグ会社の情報も受け、今後物を選ぶ喜びや意思決定支援にも繋がるサービスとして、訪問交渉も積極的に続けていく予定もされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人独自で行われている研修に参加し、自分たちのケアを振り返る機会を設けております。	法人で外部講師を招いて研修を行い、玄関の施錠は夜間のみとし、声のかけ方や個々の尊厳やプライバシーなど、職員全員が交代で学び、身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人独自の研修に参加したり、新聞などでの記事を掲示し、自分たちのケアを振り返る機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人全体研修には参加していますが、周知・活用には不十分さがあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に一つ一つ説明を行いながら同意を得ています。日々の中でもご家族とのコミュニケーションを図りながら対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にご家族の参加はなく、家族会も今年は開催していませんが、面会時などにご家族の要望を聞いています。	面会、通院、外出・外泊時等に、保護者からその時々のお思いを聞き取り、スタッフ会議にかけて皆で周知し、不満や心配事解決に向けた取り組みを行っています。今回のアンケート調査で、ご家族から出た意見も真摯に受け止めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員との個人面談において意見を聞き、代表者へ伝えています。	法人理事長と年に1回、管理者とは半年に1回の面談を実施して、風通しの良い職場作りを推進し、法人内の移動を迅速に行うなど、職員の意見・意向に沿った運営に取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日々の姿勢、個人面談にて評価を行っています。又、環境の改善や労働条件の見直しを図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内のキャリアパスの中で、職員に必要な研修は参加しています。又、法人独自の研修会にも参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	近隣法人との、職種に応じた研修を行い、意見交換を図る機会があります。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に、担当ケアマネから情報を頂いたり、関係事業所にご本人の様子を聞き取りに伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申し込みの段階から、ご家族にお話を伺ったり、ケアマネに連絡をとったりと関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人の希望やご家族の意向を聞きながら見極め、法人内の事業所と相談・連携しながらサービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者の残存機能を活かしながら、暮らしの中の動作をご利用者と一緒に行っていますが、職員の意識的に、不足している部分があります。さらにご利用者の出来る事に目を向けた支援に努めていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族とのコミュニケーションを大切にしながら、ご利用者、ご家族の関係を繋げていけるように対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	回数は少ないですが、地域の行事にも参加しています。又、ご自宅への外出・外泊にも柔軟に対応しています。隣接するデイサービスのご利用者とも関係を継続しています。	馴染みの美容院や病院に、ご家族と一緒に自由に出掛けて頂いたり、近くの池や田園等を散歩したりしています。公用車はまだありませんが、必要時には隣接するデイサービスセンターから借りて、地元の秋のお祭りに参加しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の関係性を考慮しながら、座席などを配慮しています。又、生活場面でも一緒に作業したりなど配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	併設の特養へ入所された方について、職員から相談を受けたり、ご利用者・ご家族がホームに寄りやすい環境でしたが、移設してからは中々難しくなっています。退所されたご家族が来られる事はあります。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所以前の生活のご様子の把握も行いながら、日々のご本人の様子やご本人との会話から思いの把握を行っています。	ショートステイやデイサービス利用から入居される方も多いため、ご本人の意向やご家族からの情報もあり、日々の会話から新たな情報を聞き取るなど、その時々思いに寄り添った支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前に利用していた事業所やケアマネ、ご家族に聞き取りを行いながら、ご本人の暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の職員間の申し送りやスタッフ会議等でご利用者の状態を共有し、出来ない事よりも出来る事への共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現在、ケアマネは兼務の状態ですが、スタッフ会議でのカンファレンスや日々の状態変化など、こまめに報告しています。	ケアマネージャーは、デイサービスセンターとの兼務になっていますが、スタッフ会議への参加や介護計画の見直しなどに努め、スタッフ一丸となって介護計画に即したケアに取り組まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録については、本人の様子についての記録がほとんどの為、ケアの実践や結果も記録できるように改善を図っていきたくと思います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	出来るだけ、ご利用者やご家族のニーズに沿うように努めていますが、柔軟な多機能化には至っておりません。法人内の事業所との連携を行いながら、取り組んでいきたいと思っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	十分な地域資源の把握とは言えませんが、施設の中だけでなく、地域の中の一員としての暮らし方を、柔軟な発想の中で考えていけるように努めます。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在、診療所より月に1回の往診、又かかりつけ医との連携が必要な場合はご家族と相談し対応しています。	かかりつけ医は希望を受けて対応していますが、同法人「診療所」「訪問看護ステーション」の協力体制も整っている為、徐々に移行する利用者も増えています。最近では、地元歯科医の訪問診療を受けている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内訪問看護と連携し、週1回の訪問看護師の訪問や24時間体制にてご利用者の状態変化に対応して貰っています。ご利用者の状態についても相談に乗ってもらい、診療所につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護、診療所との連携により、病院との連携もとれています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化の指針に対して、入所時に同意を得ています。状態変化の際は、細目にご家族と連絡を取り合いながら対応出来ています。	看取り対応は「重度化対応に関する指針」を提示し、ご家族の意向に沿った誠実な介護を目指しています。法人内の様々な事業所を運営し、介護度の変化に伴う移動のケースもありますが、多職種協働に基づき、緊急時にも対応できるチームケアの体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故の際は連絡体制が出来ていますが、応急手当などの訓練は出来ていません。訪問看護師などに指示を貰いながら対応している為、今後、訓練などを行い、誰もが対応出来るようにしていきたいと思いません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の消防団に協力してもらいながら、年に2回の避難訓練、消火訓練を行っています。	年2回、向かいに立地するデイサービスセンターと合同で避難訓練を行い、地元消防団にも参加してもらい、消火器の配置位置や使い方の指導を受けています。法人ではBCPも整備されています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	しっかりと出来ているとは言えない状況ではありますが、ご利用者の訴えにもしっかり耳を傾けながら言葉がけをして、スタッフ会議などでも話し合い、対応出来るようにしていきたいと思っています。	トイレ誘導の際は、利用者さんの動きを察知し、静かに寄り添い周囲に配慮したトーンでの声掛けで、プライバシーに配慮した支援に取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来るだけ無理強いすることが無い様に、声掛けをしながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側での決まりごとが多いのも現状ですが、ご本人の日課としてやってきた事も大切にしながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来る方には、職員と一緒に衣類を選んだり、ご自分で選んだりなどしています。また、いつでも身だしなみが整えられるように対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	現在、食事作りは行っていませんが、盛り付けや片付けは手伝ってもらっています。又、行事などの際の食事作りは一緒に行っています。	ご飯とみそ汁は手作りし、副菜等は委託事業所より届いた物を温めて提供しています。ご近所より頂いた野菜等は漬物にしたり、みそ汁や煮物に使うなど、利用者さんと一緒に調理を楽しむ取り組みを行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々のご利用者の状況を踏まえ、食事量や水分摂取量の対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは、ご本人の状況に応じて全員行っています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ご本人の排泄量、排泄パターンを把握し、声掛けなどを適宜に行いながら支援しています。	日中はリハビリパンツと、パットを使用して個々の排泄パターンに応じた誘導支援を行い、夜間頻尿の利用者には、ポータブルトイレを使用するなど、排泄の自立に向けた支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄の様子を見ながら、水分や乳製品にて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	毎日入浴を行っています。時間帯は決まっていますが、気が進まない日などは、次の日と交換したりして支援しています。	個々の希望に沿った入浴の機会を設け、週に3回の入浴を行う方や、その日の気分で入浴出来ない時は翌日に入るなど、柔軟な対応で気持ち良く入って頂けるように工夫されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人のその日の体調を見つつ、昼夜逆転を防ぎながら休息出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬のセットは職員が行っている為、処方薬の説明書は個人ファイルに最新の物をとじ込み、いつでも確認できるようにしています。又、医師や訪問看護師に相談しながら状態の確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	他サービス利用時、ご家族からの聞き取りや日々の生活の中でのご本人の様子、会話の中から入所しても継続的に支援できるように対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	コロナ禍もあり、外出支援はなかなか難しい状況でしたが、今年度は2度地域の行事にも参加出来、日々の中でも散歩やご自宅への外出・外泊など対応しております。	ご家族からの希望で自宅への外泊や、外出希望を柔軟に認め、コロナ禍後の対応に努めています。近隣で開催された「地元フェスティバル」に出向いたり、日常の散歩を習慣づけるなど、ホーム外に出かける支援に取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は、金庫で預かっております。あまり外出する機会がなかった為、ご本人が使う事はありませんでしたが、今後、外出の機会などにご自分で購入できるように支援していきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族から電話がある時は、ご本人と電話を替わってお話して頂いたり、お手紙がある際はご本人にお渡しして対応しています。又、ご本人から希望があれば、ご家族に電話する事も対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾ったり、外の光が入ったりできる様にカーテンを開けたりしながら対応しています。又、適度に換気して、寒すぎず、暑すぎない室温で過ごして頂いています。	各部屋から出た所にリビングが広がり、食堂も繋がった広々とした共有スペースになっています。隅にはお雛様も飾られ、窓からの眺めを楽しめるようにソファを配置して、リビングの角にはソファを置くなど、その時々利用者個々の思いで、ひと休み出来るように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間においては、ソファや畳などを設置し、テレビを観たり、景色をみたりして過ごせる場所を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	現在のお部屋は、ベッド位置などの制限はありますが、入居時にご自宅で使用されていたものや、ご家族がご用意してくれたものが使用できるように対応しています。	自宅から持ち込んだ馴染みのタンスも収まってしまうほどのクローゼットが各部屋に整備され、すっきりした部屋となっていますが、使い慣れた備品等の持ち込み対応は、引き続き行っていく予定との事です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内は広々としていますが、その中でもシルバーカーを使用したり、安全に生活が出来るよう配慮しています。		